

令和8年度 穴水小学校 学校経営ビジョン

1 学校教育目標

「考える力」と「寄り添う心」を育てる学校

2 めざす学校像

子どもたちが未来の社会を生き抜くためには、自ら考え抜く力と、他者に寄り添い、理解し、協働できる心が必要である。

令和8年度は、「確かな学力 × 聴く力 × 他者理解」をビジョンの三本柱として位置づけ、子どもたちが自分らしく、そして他者と共に成長できる学校を創っていく。

3 めざす児童像

- ・ 基礎学力をしっかりと身につけ、自信を持って学ぶ子
- ・ 相手の話を丁寧に聴き、理解しようとする子
- ・ 自分の考えを持ち、仲間と対話しながら深められる子
- ・ 違いを尊重し、他者に寄り添える優しさを持つ子
- ・ 未来の社会を主体的に切り拓く力を備えた子

4 めざす教師像

- ・ 授業の質向上に努め、学力保障に責任を持つ教師
- ・ 課題に真摯に向き合い、改善の工夫を重ねる教師
- ・ 教職員同士お互いに尊重し合い、チームとして協働できる教師

5 ビジョンの詳細

○基礎的な学力の定着を「思考の土台」として徹底する

- ・ 読み・書き・計算などの基礎学力を確実に身につけることを最優先課題とする
- ・ 単なる反復ではなく、理解に基づく学習を重視
- ・ 「わかったつもり」を見逃さず、個別最適な支援を行う
- ・ 基礎の定着によって、子どもが自信を持ち、思考力・判断力・表現力の育成につながる

○「聴く力」を学びの中心スキルとして育てる

- ・ 聴く力を「学習規律の要」と捉え、全教科・全活動で育成
- ・ 相手の話を最後まで聴く、意図を読み取る、問い返すなどのスキルを段階的に指導
- ・ 聴く力を高めることで、対話的な学びが成立し、学習の深まりが生まれる
- ・ 「聴くことは、相手を尊重すること」という価値観を学校文化として根づかせる

○ 他者理解を通して「寄り添う心」を育てる

- ・ 子ども同士の違いを認め合い、互いの背景や考え方を理解する教育を推進
- ・ 道徳・学級活動・総合的な学習で、対話を中心とした学びを展開

- ・ 「自分と違う意見に出会ったときこそ成長のチャンス」という姿勢を育てる
- ・ 他者理解が深まることで、いじめの未然防止や安心できる学級づくりにつながる

○ 安心して挑戦できる「学びのコミュニティ」をつくる

- ・ 子どもが失敗を恐れずに意見を言える、心理的安全性の高い学級づくり
- ・ 教職員がチームとして連携し、子どもを多面的に支える体制を整える
- ・ 保護者・地域と協働し、子どもを中心に据えた教育コミュニティを形成